

# 研修報告書

焼津市議会議員 様

議員氏名 秋山博子

令和 5 年 5 月 18 日 ~5 月 19 日 下記のことについて、研修に参加したため、概要について報告いたします。

研修名	「国の動きと制度の基礎的解説講座」(資料受講)
研修の目的	地方財政・教育予算・子どもの貧困問題、など、地方議員として知るべき財政の基礎知識と現代的な課題として教育・貧困について学びたい。(主催：地方議員研究会／講師：甲南大学・足立泰美氏) *資料受講
所感	<p><u>(1)「地方財政の基礎：歳入」</u></p> <p>臨時財政対策債の推移の説明が興味深い。まず国の財政が悪化→地方交付税不足→投資的経費以外の経費に充当できる地方債として H13 年 (2001 年) に創設されたものであるが、日経新聞ではこれを「国が仕送りできずに子に借金させている形」と表現している。</p> <p><u>(2)「地方財政の基礎：歳出」</u></p> <p>財源に限りがある中、主眼は「デジタル化」「地域活性化」の 2 点に尽きると指摘。講座では特にデジタル活用のさまざまな事業の歳出例を検証。「誰も取り残さない」行政サービスの実現こそ DX の目標とするところであり、地域活性化にもつながっていくはずという。</p> <p><u>(3)「教育予算の基礎」</u></p> <p>教育の ICT 化は 3 つの A (Active 活性化) (Adaptive 最適化) (Assistive) に貢献する。特に Assistive の事例①東日本震災時に避難所での教育に電子黒板やコンピュータが活用され、震災後も家庭学習のツールとして活用②病室から出られなくても授業が受けられる遠隔授業③教室に通えない子どもの分身として人的ロボット「Orihime」採用、など紹介。GIGA スクール構想が実現し、独自の工夫が現場に広がっていると感じた。</p> <p><u>(4)「子どもの貧困問題の基礎」</u></p> <p>まず「貧困とは何か」という問いかけから始まり、客観的指標・主観的指標、社会的排除という貧困 (職業・社会活動・住宅・教育・健康・社会サービスへのアクセスの権利からの排除) の認識がなければ、その課題解決は出来ないと指摘。内閣府の貧困指数の一覧「子ども貧困対策に関する概要」は私たちに課題が山積していることを突き付けている。</p>
今後の参考となる事項	<p>●不登校について、学校が子どもたちから選ばれていない、という現実に対し「学校はどう変わっていけるか」の段階だろうと思うので、Orihime など ICT の可能性に期待したい。</p>

\* 上記に書ききれない場合は、適宜別紙を添付してください。

\* 参考資料等がある場合は、添付してください。